

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	IRS-B
会社名	入間川ゴム株式会社
住所	埼玉県狭山市入間川 1-15-40
担当部門	営業本部
電話番号	04-2953-3132
ファックス番号	04-2953-3133
整理番号	IR-0048

2. 危険有害性の要約

危険有害性の情報	: ゴム加硫物として情報なし
GHS分類	: 分類基準に該当しない
国・地域情報	: 該当しない
国内法による規定	: 該当しない

3. 組成、成分情報

化学物質又は混合物の区分	: 混合物
一般名	: 加硫ゴム

成分情報

原料ゴム、ゴム薬品、無機粉体、他、次の物質を添加して加硫ゴムとしております。

労働安全衛生法通知対象物

カーボンブラック (政令番号 130)	10	～	20	wt%
鉱油 (政令番号 168)	5	～	10	wt%
酸化亜鉛 (政令番号 188)	0	～	2	wt%
ロジン (政令番号 632)	0	～	2	wt%

4. 応急措置

情報

吸入した場合	シート状固体につき該当しない。
皮膚に付着した場合	必要に応じて触れた箇所は石鹼を使ってよく洗浄して下さい。
目に入った場合	清浄な水にて数分間、充分洗浄し、目に傷がついたときや刺激があったとき等、必要に応じて医師の手当を受けて下さい。
飲み込んだ場合	水でよく口の中を洗浄し、必要に応じて医師の手当を受けて下さい。
予想される急性症状及び遅発性症状	ゴム加硫物として情報なし
最も重要な兆候及び症状	ゴム加硫物として情報なし

5. 火災時の措置

消火剤	水、泡、不活性ガス、粉末消火剤、乾燥砂等。
特有の危険有害性	燃焼した場合は有毒ガスが発生する可能性があります。

特有の消火方法	消火作業は可能な限り風上から行う。 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。
消火を行う者の保護	呼吸用保護具を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項	人体へ特別な影響を及ぼす情報はありますが、必要に応じて触れた箇所は石鹼を使ってよく洗浄して下さい。
保護具及び緊急措置	ゴム加硫物として情報なし。
環境に対する注意事項	流出した製品が河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収・中和	粉塵が発生した場合には、冷却し、掃き集め回収する。製品が重い場合には、落下、転倒に充分注意し安全な場所へ移動する。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	1) 移動する際に、静電気が発生することがありますので、可燃性溶剤を使用する場合には、アースを取るなど適切な対応が必要です。 2) 研磨粉や切削粉等が堆積すると自然発火することがあります。堆積した場合は除去してください。 3) 取扱い後は、石鹼を用いて、手洗い、洗顔を行う。
局所排気・全体排気	研磨等を行うと、高温となり発生するガスが眼、鼻、呼吸器、皮膚を刺激する恐れがあります。加工時の異常な温度上昇を避けるとともに、必要に応じて局所排気装置等を使用するなど排気及び換気に配慮して下さい。
安全取扱い注意事項	研磨等を行なう場合は、状況に応じ保護具を着用して下さい。
保管	
技術的対策	火気注意
混触禁止物質	ゴム加硫物として情報なし
保管条件	直射日光、水濡れ、高温、屋外保管を避け、冷暗所に保管して下さい。折り曲げたり、変形させたりしないで下さい。
安全な容器包装材料	透明な包装材料を避け、空気及び日光に接触、晒さないようにして下さい。
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	ゴム加硫物として情報なし。
設備対策	粉塵、ガスを発生させるような作業は、局所排気装置等を使用し、十分な換気を行って下さい。

取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設けることが望ましい。

保護具

呼吸器の保護具	研磨加工等を行う場合防じんマスク、ガスマスク
手の保護	保護手袋
目の保護	研磨加工等を行う場合保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	保護服（長袖作業衣）、保護長靴、安全靴、作業帽等
衛生対策	必要に応じて触れた箇所は石鹼を使ってよく洗浄して下さい。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状	シート状固体
色	黒色
臭い	微臭あり
密度(比重)	非開示
溶媒に対する溶解性	水に不溶
燃焼性	通常環境で着火した場合燃焼が継続する可燃物である。
物理的状態が変化する特定の温度／温度範囲	加硫ゴムのため物理的状態が変化する特定の温度はない。

10. 安定性及び反応性

安定性	一般的な貯蔵、取扱いにおいて安定である。
危険な反応	自己反応なし。
避けるべき条件	ゴム加硫物として情報なし。
混触危険物質	ゴム加硫物として情報なし。
危険有害な分解生成物	燃焼した場合は有毒ガスが発生する可能性がある。

11. 有害性情報

健康有害性

急性毒性	ゴム加硫物として情報なし
皮膚腐食性・刺激性	ゴム加硫物として情報なし
眼に対する重篤な損傷・刺激性	高温に加熱した場合ゴムから揮発するガスは、目を刺激する恐れがある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	ゴム加硫物として情報なし
生殖細胞変異原性	ゴム加硫物として情報なし
発がん性	ゴム加硫物として情報なし
生殖毒性	ゴム加硫物として情報なし
特定標的臓器・全身毒性	ゴム加硫物として情報なし
吸引性呼吸器有害性	ゴム加硫物として情報なし

12. 環境影響情報

生態毒性	ゴム加硫物として情報なし
残留性・分解性	ゴム加硫物として情報なし

生態蓄積性
 土壤中の移動性

ゴム加硫物として情報なし
 ゴム加硫物として情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令の廃プラスチック類に該当します。各自治体等の規制に準拠すること。

14. 輸送上の注意

国連分類
 海洋汚染物質
 輸送の特定の安全対策及び条件

国連勧告の定義上、危険物に該当しない。
 非該当
 輸送前に包装の破損、濡れ等のないことを確かめる。
 転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷くずれ防止を確実に
 行う。直射日光を避ける。

15. 適用法令

消防法
 労働安全衛生法通知対象物質

指定可燃物（合成樹脂類）3,000kg 以上
 第 3. 項を参照のこと

16. その他の情報

- 1) 本記載内容は、当社で入手した資料、情報、データに基づいて作成しておりますので、新しい知見により改訂されることがあります。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。
- 2) 注意事項は、通常の手扱いを対象としたものですので、特殊な取扱いに際してはその用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。
- 3) 加硫：JIS K 6200:2019 ゴム用語 による定義は下記の通りです。化学構造を変化させる（例えば、架橋）ことによって、ゴム弾性を付与、回復若しくは改良をしたり、又は広い温度領域にわたって、弾性を付与された状態に変化させる工程。場合によっては、硬質化するまでの工程をいう。